

資料提供 平成30年5月8日	
課名：平和推進プロジェクトチーム 担当者：下崎 内線：2365 直通電話：082-513-2368	課名：観光課 担当者：山本 内線：3387 直通電話：082-513-3388 【日本・ロシアフォーラム2018】

知事の欧州訪問の結果について

〔 日付表示は現地時間
組織名称は一部略称使用 〕

1 全体概要

NPT（核兵器不拡散条約）運用検討会議第2回準備委員会に参加し、シンポジウムの開催や個別の意見交換を通じて、本県の平和の取組の発信や核軍縮の進展に向けた働きかけ等を行った。

また、本県の平和研究機能の強化を図るため、世界的な研究機関等を訪問し、本県との連携強化を図った。

併せて、モスクワで開催された日本・ロシアフォーラム及び日本政府観光局訪日観光促進交流会に登壇し、誘客に向けた観光情報発信などを行った。

【訪問日程】 平成30年4月22日(日)～4月29日(日)

【訪問場所】 ジュネーブ（スイス）、ロンドン（イギリス）、モスクワ（ロシア）

(1) ジュネーブ訪問

□ NPT運用検討会議第2回準備委員会への参加

- ア 県主催シンポジウムの開催
- イ 県主催ワークショップの開催
- ウ NPT運用検討会議第2回準備委員会議長との意見交換
- エ 2020年NPT運用検討会議議長候補（在ウィーン国際機関アルゼンチン大使）との意見交換
- オ 国連軍縮担当上級代表との意見交換
- カ 「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」提言に関する提案書の提出
- キ PAX主催サイドイベントへの参加
- ク 本県の平和の取組を紹介するパネル展示・「ひろしまレポート」の配付

□ 研究機関・NGO等との意見交換

- ア 国連軍縮研究所（UNIDIR）所長との意見交換
- イ 核脅威イニシアティブ（NTI）会長との意見交換
- ウ 核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）コーディネーターとの意見交換
- エ パグウォッシュ会議代表との意見交換
- オ 世界経済フォーラム（WEF）会長との意見交換

(2) ロンドン訪問

- ア 王立国際問題研究所（チャタムハウス）所長との意見交換
- イ 欧州リーダーシップネットワーク（ELN）議長との意見交換

(3) モスクワ訪問

- ア 日本・ロシアフォーラム2018等への登壇
- イ ロシア大統領の被爆地広島訪問要請
- ウ 米国・カナダ研究所元所長との意見交換

2 主な内容

(1) ジュネーブ訪問

□ NPT運用検討会議第2回準備委員会への参加

ア 県主催シンポジウムの開催【4月25日(水)】

「核軍縮を実質的に進めるためのステップの具体化について」をテーマとし、政府代表者、国連機関、NGO関係者等を対象にシンポジウムを開催した。

- 冒頭、UNIDIRドゥワン所長から挨拶をいただいた後、知事から、核兵器廃絶の具体的なプロセスの進展に向けた本県の取組として、ひろしまジュニア国際フォーラムなど平和の担い手の育成機能や各界の指導者に対する被爆地訪問の呼び掛けの強化、核軍縮を実質的に進めていくための方策づくりへの取組などについて発信した。また、核軍縮のため、国・自治体・NGO・市民社会、それぞれが、胸襟を開き、知恵を出し合い、進めていくことの重要性を訴えた。
- その後、UNIDIR、SIPRIから昨年度の研究成果が報告され、核軍縮を実質的に進めるためのステップの具体化について意見交換する中で、具体的な進展につながる方策として次が挙げられた。
 - ・NPT6条に基づくコミットメントの再確認
 - ・非戦略核兵器のリスク低減
 - ・戦略的安定対話の公式化
 - ・北朝鮮への段階的な核兵器の役割低減
- また、意見交換の中で次の意見があった。
 - ・安全保障と軍縮を別物として扱う、2分法を乗り越えることができれば、新しい核軍縮の進め方ややり方も考えられる。
 - ・核兵器国と非核兵器国の亀裂が深まっている状況下においては、信頼醸成措置や代替措置を検討することが重要。また核兵器の役割低減や非核化を進めていくため、軍縮やリスク削減プロセスに関する透明性の向上が求められる。
 - ・安全保障の概念やそのための条件は地域によって異なるため、消極的安全保証を地域安全保障と関連付けて考えることが必要。



冒頭挨拶：UNIDIR ドゥワン所長，湯崎知事

パネラー：UNIDIR ジョン・ボリー 研究部長，SIPRI シビル・バウアー 研究部長，
スウェーデン政府 ダニエル・ノード シニア軍縮アドバイザー，

外務省：今西靖治 軍備管理軍縮課長

モデレーター：一橋大学 秋山信将 教授

イ 県主催ワークショップの開催【4月24日（火）】



「核兵器禁止条約発効後の取組について」をテーマとしたワークショップを開催し、政府関係者、国際機関、NGO等と意見交換を行った。

参加者から、核兵器禁止条約（TPNW）の効果を発現できるよう、核兵器国や核の傘の下にいる国々を巻き込む策として、一般市民への啓発・教育がますます重要になってくることが指摘され、その分野における広島への期待が示された。

〔主な意見〕

- ・核軍縮の実効性を高めるため、核軍縮検証業務を、どのような形で、TPNWの中に入れこむかが重要
- ・核抑止に関する一般の人々の理解を深めるため、国家がもっと平和教育に力を入れる必要がある。
- ・核軍縮を国際社会全体で取り組むため、核軍縮の問題を国連の全体目標として掲げて取り組むことが必要
- ・TPNWについて、常任理事国中では、唯一、後向きではなかった中国を、どう取り込むかが重要ではないか。

〔参加者〕政府関係者：アイルランド、メキシコ

NGO等：赤十字国際委員会、核戦争防止国際医師会議、PAX、UNIDIR、SIPRI

ウ NPT運用検討会議第2回準備委員会議長との意見交換【4月24日（火）】



ブガイスキー議長に対し、知事から、ひろしまラウンドテーブル議長声明、SIPRI・UNIDIRの各報告書及び賢人会議への提案を手交し、本県の提案の実現を働きかけた。

議長からは、核兵器のリスクを削減し、各国の透明性を高めるため、広島が進める方策づくりや研究機関との連携について、大きな期待が示された。

エ 2020年NPT運用検討会議議長候補との意見交換【4月24日（火）】



グロッシ議長候補に対し、知事から、ひろしまラウンドテーブル議長声明、SIPRI・UNIDIRレポート及び賢人会議への提案を手交し、本県の提案の実現を働きかけた。

議長候補からは、2020年NPT運用検討会議まであと23か月しかなく、具体的な成果を出す必要があることや、広島が進める取組への期待について言及された。

オ 国連軍縮担当上級代表との意見交換【4月24日（火）】



中満上級代表に対し、国連事務総長の国際平和のための世界経済人会議参加や平和記念式典参列を働きかけた。

カ 「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」提言に関する提案書の提出【4月25日（水）】

外務省が設置した賢人会議の提言に関して、広島県からの提案書を外務省吉田軍縮不拡散・科学部長へ手交した。

部長からは、賢人会議の提言はこれから具体化していくので、その際の参考にさせていただくと発言があった。



キ PAX主催サイドイベントへの参加【4月23日（月）】

PAXが主催するサイドイベントに登壇し、広島県の取組について発信した。
※PAX：オランダに本部を置き核兵器廃絶を目指すNGO団体

ク 本県の平和の取組を紹介するパネル展示・「ひろしまレポート」の配付

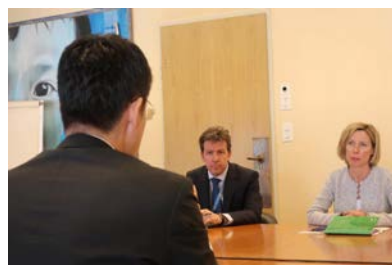
国際平和拠点ひろしま構想及びひろしまレポートの紹介パネルを国連内に展示するとともに、政府・研究機関、NGO関係者にレポートを配付し、本県の平和の取組を発信した。



□ 研究機関・NGO等との意見交換

ア UNIDIR所長との意見交換【4月24日（火）】

ドゥワン所長と今後の連携や国連をめぐる核問題への対応状況について、意見交換を行った。



イ N T I 会長との意見交換【4月23日（月）】

ロルフィン会長と広島県の平和の取組の発信力強化について意見交換を行うとともに、オンラインを活用した平和教育について、具体的な連携を進めることを確認した。

ウ ICANコーディネーターとの意見交換【4月23日（月）】

ICANコーディネーターのホグスタ氏、川崎氏と会談し、核兵器廃絶に向けた国際的機運を向上させるための方策について意見交換し、人材育成分野での具体的な連携を進めることを確認した。



エ パグウォッシュ会議代表との意見交換【4月24日（火）】

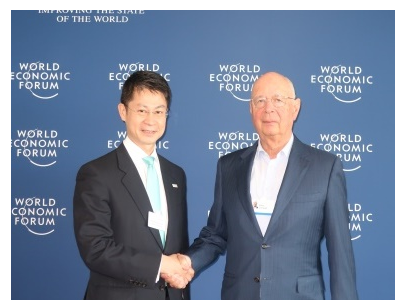
ドゥアルテ代表と核兵器禁止条約発効後の取組として、NGOが果たす役割の重要性を再確認し、今後の連携について意見交換を行った。

オ WEF会長等との意見交換【4月25日（水）】

シュワブ会長へ広島での核兵器廃絶に向けた取組を紹介し、国際平和のための世界経済人会議への参加を依頼した。

また、ダボス会議における平和に関するセッションの増加を依頼した。

このほか、ダボス会議のセッション・コーディネーターにも、同様に依頼を行った。



(2) ロンドン訪問【4月26日（木）】

ア チャタムハウス所長との意見交換



ニブレット所長と意見交換し、核兵器廃絶に向けた具体的な方策の研究や、ひろしまラウンドテーブル及び国際平和のための世界経済人会議への参加など、連携の具体化に向けた協議を、連携協定締結を視野に置いて、進めていくことを確認した。

イ ELN議長との意見交換



欧州リーダーシップネットワーク（ELN）ブラウン議長とELNが持つ核軍縮、核不拡散に関する英国議会グループ（トップレベルグループ）や若者のグループとのプロジェクト運営における連携等について意見交換を行った。

※ELN：欧州各国の現職又は元議員、研究者、NGO関係者等で構成

(3) モスクワ訪問【4月27日(金)】

ア 日本・ロシアフォーラム 2018 等への登壇

毎日新聞社・ロシア新聞社主催の「日本・ロシアフォーラム2018」や日本政府観光局主催の「モスクワ訪日観光促進交流会」で講演し、現地メディアや旅行会社等に対し、誘客に向けた観光情報の発信を行った。



イ ロシア大統領の被爆地広島訪問要請

プーチン大統領の被爆地広島訪問を要請する書簡をロシア連邦モルグロフ外務次官へ手交した。

※書簡は添付のとおり



ウ 米国・カナダ研究所元所長との意見交換

ロゴフ元所長とひろしまレポートやひろしまラウンドテーブルにおける協力の可能性について協議するとともに、ロシア情勢や米国・カナダ研究所の取組について意見交換を行った。

エ RT（ロシア・トゥデイ）のインタビュー

ロシア国営メディアであるロシア・トゥデイから、核抑止論、朝鮮半島をめぐる情勢、広島の取組等に関してインタビューを受けた。

3 成果

【発信力の強化】

- NPT運用検討会議第2回準備委員会サイドイベントとして、本県が、UNIDIR、SIPRIと共催したシンポジウムには、スウェーデン政府、日本政府からのパネリストをはじめ、多くの政府関係者やNGOの参加を得て、広島からの具体的な核軍縮に向けた取組を発信する、大変良い機会となった。

また、本県が提案した核軍縮を実質的に進めていくための方策について、多くの賛同や意見をいただいたところであり、改めて本県の果たす使命と役割への期待の大きさを確認することができた。

- 本県主催ワークショップについても、核兵器禁止条約を巡って、政府関係者やNGOの参画を得て、今後の取組の方向について、率直な意見交換を行うことができ、核兵器禁止条約発効後を見据えた取組の重要性について、認識を共有できた。
- 加えて、国連事務総長やプーチン大統領の被爆地訪問の働きかけ、WEFシュワブ会長に対する国際平和のための世界経済人会議参加やダボス会議での核軍縮セッション増の働きかけについては、被爆地の思いを、前向きに受けとめていただいた。

【研究機能の強化】

- 本県主催シンポジウムを通して、UNIDIR、SIPRIとの共同研究について、関係者から核軍縮を実質的に進めるためのステップの進展につながる方策として賛同を得るなど、核軍縮に向けて、広島からの政策提案による具体的な貢献を確認した。
- 核軍縮のための具体的な政策づくりに向けて、新たに、英国の王立国際問題研究所、ELN、NTIと、ひろしまラウンドテーブルやひろしまレポートを通じた連携強化を図っていくことを確認した。

【人材育成の充実】

- 核兵器廃絶に向けて、ひろしまジュニア国際フォーラムを核とする、国際平和貢献人材の育成の重要性について、ICAN、NTI、グローバルゼロ、ELNなどと、認識を共有したところであり、今後、連携してプロジェクトを実施することを視野において、協議を進めることとした。

【観光情報の発信】

- このほか、ロシアでは、現地メディアや旅行会社等に対し、誘客に向けた観光情報の発信を行った。

【まとめ】

- 今回の訪欧で、強化あるいは構築に向けて着手した国際機関、研究機関、NGO等、様々な機関等とのネットワークを、具体的な取組へと充実させていき、核兵器のない平和な国際社会の実現に具体的に貢献していきたい。

4 日 程 平成 30 年 4 月 22 日 (日) ~ 4 月 29 日 (日)

月 日	時 間 (現地時間)	項 目	場 所
4/22 (日)	—	(移動)	—
4/23 (月)	10:20~11:30 13:15~14:25 15:30~16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ NTI 会長との意見交換 ・ PAX 主催サイドイベントへの参加 ・ ICAN コーディネーターとの意見交換 	ジュネーブ
4/24 (火)	10:00~10:30 11:00~11:30 13:15~14:45 16:00~16:30 17:40~18:00 18:15~18:45	<ul style="list-style-type: none"> ・ パグウォッシュ会議代表との意見交換 ・ UNIDIR 所長との意見交換 ・ 県主催ワークショップの開催 ・ 国連軍縮担当上級代表との意見交換 ・ 2020 年 NPT 運用検討会議議長候補との意見交換 ・ NPT 運用検討会議第 2 回準備委員会議長との意見交換 	ジュネーブ
4/25 (水)	09:45~11:30 12:30~13:00 13:15~14:45 15:00~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ WEF 会長等との意見交換 ・ 「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」提言に関する提案書の提出 ・ 県主催シンポジウムの開催 ・ グローバルゼロ創設者との意見交換 	ジュネーブ
4/26 (木)	09:00~10:30 11:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ ELN 議長との意見交換 ・ チャタムハウス所長との意見交換 	ロンドン
4/27 (金)	10:00~15:10 (11:50) 15:45~16:15 16:30~17:40	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本・ロシアフォーラム 2018 への登壇 ・ ロシア大統領の被爆地広島訪問要請 ・ RT インタビュー ・ 訪日観光促進交流会への登壇 	モスクワ
4/28 (土)	12:00~13:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国・カナダ研究所元所長との意見交換 	モスクワ
4/29 (日)	—	(移動)	—

HIROSHIMA PREFECTURAL GOVERNMENT

10-52 MOTOMACHI, NAKA-KU, HIROSHIMA 730-8511 JAPAN TEL: +81-82-513-2368

апреля 2018 года

Российская федерация
Президенту Путину Владимиру Владимировичу

8 часов 15 минут 6 августа 1945 года, атомная бомба, запущенная в городе Хиросима, взорвалась на высоте около 600 метров от земли. Все деревянные строения, находящиеся до 2 км от эпицентра, были полностью сожжены или разрушились, около 70 тыс. домов - почти 90% домов города Хиросима разрушились или выгорели. Говорят, что до конца декабря того же года погибли около 140 тыс. человек, 40% населения.

Таким образом атомное оружие моментально и без исключения проводит массовое уничтожение и убийство. Также от последствий радиации постоянно и долгое время страдают люди. Кроме того, разрушение от ядерного оружия приносит не только смерть людей и буквальное уничтожение домов, но и в прямом смысле стирает местную историю и память людей.

Мы, пострадавшие от бомбардировки, лично знаем эту трагедию от ядерного оружия, поэтому, несмотря на такой возраст, взываем о полном уничтожении ядерного оружия и говорим так: "Не хотим, чтобы это повторилось никогда и ни с кем".

В прошлом году произошло историческое событие - был принят Договор о запрещении ядерного оружия и ICAN получила Нобелевскую премию мира. Это показывает, что мир оценил долгие усилия пострадавших от ядерной бомбардировки по уничтожению ядерного оружия, и благодаря этому мы вновь проникнулись решимостью продолжать это и дальше.

С другой стороны страны, имеющие ядерное оружие, даже не участвовали в Договоре о его запрещении, из-за чего яснее проявился разрыв между странами, имеющими и не имеющими ядерного оружия, и по этой причине движение по сокращению ядерного оружия вынуждены были приостановить.

Миссия и роль города Хиросима, который был уничтожен ядерным оружием и восстановлен из развалин - сделать новый шаг для создания мирного международного сообщества без ядерного оружия и пригласить политических лидеров в наш город. Мы считаем, что посещение Хиросимы и углубление понимания политических лидеров о реальности бомбардировки дадут надежду на реализацию "мира без ядерного оружия" для всего человечества.

HIROSHIMA PREFECTURAL GOVERNMENT

10-52 MOTOMACHI, NAKA-KU, HIROSHIMA 730-8511 JAPAN TEL: +81-82-513-2368

Опыт посещения пострадавшего от бомбардировки города и ощущение трагедии от ядерного оружия прямо затронет сердца и поощрит к сотрудничеству с людьми, имеющими разные мнения и мышление, для осуществления "мира без ядерного оружия".

Поэтому мы хотим пригласить Вас, президента Путина Владимира, в Хиросиму, чтобы Вы могли соприкоснуться с реальностью бомбардировки и задумались о полном уничтожении ядерного оружия. Мы надеемся, что при посещении Хиросимы Вы поймете, что "гарантия безопасности благодаря ядерному оружию" - это просто "теория" и миф, а его использование приведет только к печальной "реальности".

Хиросима, сосредоточив разум и силы людей, будет содействовать реализации мирного международного общества без ядерного оружия и выполнять свою миссию и роль, осуществляя конкретный шаг для сокращения ядерного оружия.

С уважением

Префект Хиросимы
Юдзаки Хидэхико

HIROSHIMA PREFECTURAL GOVERNMENT

10-52 MOTOMACHI, NAKA-KU, HIROSHIMA 730-8511 JAPAN TEL: +81-82-513-2368

2018年4月

ロシア連邦
プーチン大統領 閣下

1945年8月6日8時15分、広島に投下された原子爆弾は、地上約600mで核爆発を起こしました。爆心地から2キロ以内の木造建築は全壊・全焼し、広島市の建物の約9割に当たる約7万戸が倒壊・焼失しました。その年の12月末までに人口の40%にあたる約14万人が亡くなったとされています。

核兵器は、このように大量破壊、大量殺戮を、瞬時に、かつ無差別に引き起こします。また、放射線による障害は、継続して、長期間にわたり人々を苦しめます。さらには、核兵器による破壊は、人間の死や建造物の物理的な破壊を超えて、人々が暮らしていた地域の歴史やそこに住んでいた家族の記憶を文字通り丸ごと消し去ってしまいます。

核兵器の悲惨さを、身をもって知っているからこそ、被爆者は「二度と、誰にもこのような思いをさせたくない。」と、高齢化した今も、核兵器廃絶を訴えています。

昨年は、核兵器禁止条約の採択、ICANのノーベル平和賞受賞という、歴史的な出来事がありました。これは、被爆者の方々の長年にわたる核兵器廃絶の努力が評価されたものと、ありがたく思うとともに、核兵器廃絶への決意を新たにしたところです。

他方、核兵器国は、核兵器禁止条約に参加しようとせず、核兵器国と非核兵器国との間の亀裂が一層明確になり、核軍縮の動きは停滞を余儀なくされています。

広島は、核兵器により破壊され、その廃墟から復興した地の使命と役割として、核兵器のない平和な国際社会の実現に向けた新たな一步を踏み出すため、政治リーダーの広島訪問を呼びかけてきました。世界の政治リーダーたちが、広島を訪れ、被爆の実相について理解を深めていただくことが、世界中の人々に、「核兵器のない世界」の実現への希望を与えることにつながると考えているからです。

被爆地を訪問し、核兵器の悲惨さに触れる経験は、人々の心に直接訴えかけ、「核兵器のない世界」の実現に向けて、主張や考え方の異なる人々との協働をも促す力があります。

プーチン大統領にも是非とも広島を訪問して、被爆の実相に触れ、全ての核兵器の廃絶に向けた決意を固めていただきたいと考えています。広島を訪問されれば、「核兵器による安全保障」という神話が「理論」に過ぎず、核兵器の使用がもたらすのは、悲惨な「現実」であることを理解していただけるはずです。

広島は、人類の知恵と力を結集しながら、核兵器のない平和な国際社会の実現に向け、核軍縮の具体的なステップを進めることに貢献することにより、被爆地広島の使命と役割を果たして参ります。

敬具

広島県知事 湯崎英彦